



2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月7日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社

上場取引所 東

コード番号 9049 URL <https://www.keifuku.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大塚 憲郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長 (氏名) 藤木 斉

TEL 075-841-9385

四半期報告書提出予定日 2023年2月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	10,156	16.6	1,345	131.2	1,433	72.2	924	44.1
2022年3月期第3四半期	8,707		582		832		641	

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 1,056百万円 (42.6%) 2022年3月期第3四半期 740百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	464.89	
2022年3月期第3四半期	322.58	

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前連結会計年度の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	20,076	9,148	41.1
2022年3月期	20,152	8,096	36.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 8,248百万円 2022年3月期 7,312百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		0.00	0.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				20.00	20.00

(注) 2023年3月期の期末配当予想につきましては、通期業績予想の算定が困難であったことから未定としておりましたが、下記業績予想の修正を踏まえ、期末配当予想を1株当たり20円といたしました。

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,136	13.2	1,063	112.4	1,142	29.4	1,079	60.2	539.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2023年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の収束時期が依然として不透明であることなどにより事業活動の先行きが見通せない状況を踏まえ、未定としておりましたが、最近の業績動向等を踏まえ通期連結業績予想を算定いたしました。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	2,000,000 株	2022年3月期	2,000,000 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	12,556 株	2022年3月期	12,276 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	1,987,628 株	2022年3月期3Q	1,987,826 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。
なお、業績予想に関する事項については2ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(四半期連結損益計算書)	5
(四半期連結包括利益計算書)	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(追加情報)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間は10月以降、政府による水際措置緩和や全国旅行支援のスタートなどにより経済活動に緩やかな持ち直しの動きがみられた一方、世界経済の減速懸念や原材料価格高騰などの下振れリスクにより依然先行き不透明な状況下で推移しました。

当第3四半期連結累計期間の当社グループの営業収益は10,156百万円（前年同期比1,448百万円、16.6%増）となり、営業利益は1,345百万円（前年同期比763百万円、131.2%増）となりました。これに営業外収益及び営業外費用を加減した経常利益は1,433百万円（前年同期比600百万円、72.2%増）となり、特別利益及び特別損失ならびに法人税等を加減し、非支配株主に帰属する四半期純利益を控除した親会社株主に帰属する四半期純利益は924百万円（前年同期比282百万円、44.1%増）となりました。

次に、セグメント別の状況をご報告いたします。

① 運輸業

鉄軌道事業、バス運送事業、タクシー事業ともに、新型コロナウイルス感染症拡大以前の売上水準を大幅に下回る厳しい経営状況が続いています。そのような状況下においても、嵐山線では東映太秦映画村や沿線社寺とのイベント共同開催、叡山ケーブル・ロープウェイでは比叡山上の「ガーデンミュージアム比叡」や八瀬地域での屋外イベントとの連携、京都バス(株)では新規路線の開拓などが寄与、行動制限の撤廃や観光支援策の実施などの効果もあり利用客が増加しました。京都地区では、京福電気鉄道(株)が文化庁「観光再開・拡大に向けた文化観光コンテンツの充実事業」の採択を受け、映画文化を深掘りして伝え、映画に関連する旅行商品も販売するWEBサイト「ニッポンシネマレトロキョウト」を開設し、「映像・映画のまち太秦」をコンセプトとする情報発信を強化しました。福井地区では、京福バス(株)が交通系ICカードシステムの導入準備に着手、ケイカン交通(株)・福井交通(株)が「京福グループ配車アプリ」と「事前確定運賃」のサービスを開始するなど、2024年春予定の北陸新幹線金沢・敦賀間延伸開業に伴う来訪客増加を視野に、各対策を急ピッチで進めています。

以上の結果、運輸業の営業収益は5,010百万円（前年同期比743百万円、17.4%増）となり、営業利益は39百万円（前年同期営業損失425百万円）となりました。

② 不動産業

「BOAT RACE（ボートレース）三国」では、引き続き売上が堅調で施設賃貸収入が増収となったほか、居住系賃貸物件の賃貸収入も京都・福井とも堅調に推移しました。京福電気鉄道(株)では保有する福井口土地でテナント「クスリのアオキ」が営業を開始、(株)京福コミュニティサービスでは福井市福1丁目の賃貸住宅を取得、「Kフォート福」として管理運営をスタートするなど、不動産賃貸事業の更なる強化拡充を図りました。

以上の結果、不動産業の営業収益は4,006百万円（前年同期比388百万円、10.7%増）となり、営業利益は1,134百万円（前年同期比137百万円、13.9%増）となりました。

③ レジャー・サービス業

嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア直営店舗、ホテル京福福井駅前、三国観光ホテル、越前松島水族館とも、積極的な営業活動や観光支援策の効果で利用客が増加し、増収となりました。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は1,266百万円（前年同期比290百万円、29.8%増）となり、営業利益は170百万円（前年同期比160百万円増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、現金及び預金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ75百万円減少し、20,076百万円となりました。負債は、未払金や長期借入金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ1,127百万円減少し、10,928百万円となりました。純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ1,052百万円増加し、9,148百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の通期連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の収束時期が依然として不透明であることに加え、地政学的リスクの影響など不確定要素が多く、事業活動の先行きが見通せない状況を踏まえ未定としておりましたが、国内需要に一定の落ち着きが見られることや海外インバウンド需要についても緩やかながら回復傾向にある現状を踏まえ、業績予想を算定いたしました。

2023年3月期の通期連結業績予想は、営業収益13,136百万円（前期比13.2%増）、営業利益1,063百万円（前期比112.4%増）、経常利益1,142百万円（前期比29.4%）、親会社株主に帰属する当期純利益1,079百万円（前期比60.2%増）といたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,719	1,612
受取手形及び売掛金	1,059	1,273
販売土地及び建物	111	36
商品及び製品	17	20
仕掛品	9	0
貯蔵品	45	45
前払費用	30	47
その他	895	729
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	3,883	3,760
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,653	9,338
機械装置及び運搬具(純額)	1,189	1,122
土地	3,471	3,716
リース資産(純額)	806	800
建設仮勘定	53	293
その他(純額)	264	227
有形固定資産合計	15,438	15,498
無形固定資産	229	217
投資その他の資産		
投資有価証券	288	295
繰延税金資産	55	55
その他	258	248
貸倒引当金	△1	0
投資その他の資産合計	600	600
固定資産合計	16,268	16,316
資産合計	20,152	20,076

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	48	52
短期借入金	3,550	3,410
リース債務	144	142
未払金	882	609
未払法人税等	337	350
未払消費税等	121	250
賞与引当金	202	113
その他	422	464
流動負債合計	5,710	5,393
固定負債		
長期借入金	4,195	3,516
リース債務	730	722
長期未払金	106	66
繰延税金負債	727	640
役員退職慰労引当金	24	18
退職給付に係る負債	269	274
その他	291	296
固定負債合計	6,345	5,534
負債合計	12,055	10,928
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	299	299
利益剰余金	5,952	6,876
自己株式	△20	△21
株主資本合計	7,231	8,155
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	81	93
その他の包括利益累計額合計	81	93
非支配株主持分	784	900
純資産合計	8,096	9,148
負債純資産合計	20,152	20,076

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
営業収益	8,707	10,156
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	8,049	8,745
販売費及び一般管理費	75	64
営業費合計	8,125	8,810
営業利益	582	1,345
営業外収益		
受取利息	0	2
受取配当金	8	9
助成金収入	262	91
雑収入	23	19
営業外収益合計	294	123
営業外費用		
支払利息	39	35
雑支出	4	0
営業外費用合計	44	36
経常利益	832	1,433
特別利益		
補助金収入	124	52
固定資産売却益	3	4
移転補償金	—	5
固定資産受贈益	170	—
受取保険金	9	—
特別利益合計	308	61
特別損失		
固定資産除却損	4	12
投資有価証券評価損	1	9
その他	0	—
特別損失合計	6	22
税金等調整前四半期純利益	1,133	1,472
法人税、住民税及び事業税	327	521
法人税等調整額	72	△93
法人税等合計	400	428
四半期純利益	733	1,043
非支配株主に帰属する四半期純利益	92	119
親会社株主に帰属する四半期純利益	641	924

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	733	1,043
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	12
その他の包括利益合計	7	12
四半期包括利益	740	1,056
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	648	936
非支配株主に係る四半期包括利益	92	120

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	4,248	3,534	924	8,707	—	8,707
(2) セグメント間の内部営業 収益又は振替高	19	83	51	154	△154	—
計	4,267	3,618	976	8,861	△154	8,707
セグメント利益又は損失(△)	△425	996	9	580	1	582

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額1百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	4,993	3,945	1,216	10,156	—	10,156
(2) セグメント間の内部営業 収益又は振替高	16	61	50	128	△128	—
計	5,010	4,006	1,266	10,284	△128	10,156
セグメント利益	39	1,134	170	1,344	1	1,345

(注) 1 セグメント利益の調整額1百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。